



第109号 《春》



会長あいさつ

66回生 茶園 美香



平成もあと1ヵ月となり、新たな時代を迎えようとしております。平成は、皆様にとってどのような時代だったでしょうか。この30年は災害の多い時代でした。新しい時代が、大きな災害がなく平和であることを願っております。

慶應看護にとりまして平成は大きく変化した時代でした。平成元年4月には看護短期大学の1期生が入学した年でした。平成13年には、念願の看護医療学部、平成17年には健康マネジメント研究科(修士課程)、平成19年には健康マネジメント研究科(博士課程)が開設され大きく発展しました。さらに昨年は慶應看護100年を迎えることができ、新たな年号の今年、慶應看護の101年が、日本の歴史とともに記憶に残ることにめぐりあわせを感じています。

昨年の慶應看護100年記念式典同日開催の紅梅会総会には、孝養舎の202教室(収容人数110名程度)に立ち席が出るほど多くの会員の方に参加していただきました。卒業後30年ぶりにクラスメイトに会うという方々、北は北海道、南は熊本、アメリカからも来てくださいました。総会では会報の発行を年2回から1回にすることが決まりました。これは作成するために多くの時間を要し、編集委員の負担が大きくなっているためです。今後は、ホームページの充実を図り、皆様に情報をタイムリーにお届けする予定です。

会費納入の促進についても審議し多くの意見をいただきました。その結果、多くの会員の方に会費を納入していただきホッとしております。引き続き、紅梅会運営資金である会費納入をお願いします。また、総会当日は先輩のご提案により、181,714円のご寄付をいただきました。紅梅会運営のために大切にに使わせていただきます。

総会後は、「八竹の茶巾寿司」をいただきながら学年を越えて懐かしい学生時代の話題や近況報告で活発な交流が繰り広げられました。総会に引き続き開催された、慶應看護100年記念式典は、塾長、理事の方々にもご参列賜り盛大に催されました。その時の様子は今回の会報の(P.5~12)で特集を組み保存版としました。今回の慶應看護100年にちなんで、「愛する者はつよし」の言葉をくださった小泉信三元塾長が空襲で火傷を受けて慶應義塾大学病院に入院された時、ケアをされた先輩方へのインタビューも行われました。その内容が「三田評論」¹⁾に掲載されました。ぜひご覧ください。

新たなニュースとして、会長である茶園美香が慶應義塾の最高意思決定機関である第35期慶應義塾評議員²⁾³⁾として承認されました。これまで慶應看護の立場で選出されていませんでした。慶應看護100年を迎え、長きにわたって慶應義塾の医療・看護に貢献してきた慶應看護として、ぜひ評議員を出したいと考え昨年の10月の慶應義塾評議員選挙の時に関係者に相談し評議員として承認されました。今後、みなさまに、慶應看護、紅梅会のことをさらに認知していただけるように、慶應義塾のさまざまな企画に積極的に参加し皆様と交流したいと考えております。初回の評議員会において長谷山彰塾長より、今年の慶應義塾の方針は、「教育、研究、医療の充実を図ること」という説明があり、「慶應義塾基金」、「小泉信三基金」の充実が提案され承認されました。お手元に寄附の依頼が届いていると思います。会員の皆様からの可能な範囲でのご協力をよろしくお願いいたします。

2019年度の紅梅会総会では、昨年5月から開院した新病院の見学を看護部長と相談し企画しました。ぜひご参加ください。最後になりましたが、今年度も紅梅会として連合三田会大会に参加を計画しております。ぜひ日吉キャンパスでお会いしましょう。

1) 三田評論, No1228, 2018年12月 講読方法:慶應義塾大学出版会 TEL: 03-3451-3584 FAX: 03-3451-3122 または <http://keio-up.co.jp/mita/def/koudoku.html>

2) 慶應義塾評議員とは:<https://ja.wikipedia.org/wiki/> 3) 第35回慶應義塾評議員一覧: <http://www.somu.keio.ac.jp/2018senkyo.html>

春号の 主な内容

◆紅梅会総会のご案内	2	◆ホームカミングデイに参加して	12
◆収支決算報告・収支予算	3	◆看護医療学部だより	13
◆連合三田会の報告	4	◆同窓会報告	13
◆紅梅会総会報告	5	◆慶應義塾大学病院のトピックス	14
◆紅梅会総会に参加して	6	◆活躍する専門看護師	15
◆慶應看護100年記念式典ならびに祝賀会・ ホームカミングデイ報告	7	◆研修会報告・お知らせ	15
◆慶應看護100年記念式典/祝賀会/ホームカミングデイ	8	◆2018年度紅梅会役員・委員	16
◆慶應看護100年記念式典に参加して	10	◆紅梅会事務局より	16

会報発送者数3,377名(2019年1月31日現在)



2019年度 紅梅会総会のご案内

準備委員長 84回生 江河 都美

第76回 総会の開催のご案内

会員の皆様、昨年は紅梅会総会ならびに慶應看護100年記念式典・祝賀会・ホームカミング企画にご参加いただきありがとうございました。大変盛況に開催できましたことをとても嬉しく思っております。

今年の総会は5月11日の土曜日に開催いたします。合わせて、1年前に開院した新病院棟1号館の見学会を企画いたしました。沢山の方のご参加をお待ちしております。

記

日時 2019年5月11日(土)

開会 10時30分(開場 10時)

閉会 11時30分

新病院棟1号館見学会 13時30分～1時間程度

場所 慶應義塾大学病院内孝養舎2階202教室 〒160-8582 東京都新宿区信濃町35番地

お問い合わせ先 TEL・FAX 03-3341-8116 (紅梅会事務局:月曜・木曜の13時～17時)

会費 2,000円(軽食:八竹の茶巾寿司をご用意します。)

—プログラム—

I. 午前の部

1. 開会の言葉・黙祷
2. 会長挨拶
3. 会員代表挨拶
4. 役委員会報告
5. 審議事項
6. 質疑応答
7. 新旧役員紹介・挨拶
8. 閉会



II. 午後の部

新病院棟1号館見学会

—申し込みについてのご注意—

- ※新病院棟1号館見学会は総会に参加された方に限ります。
- ※付き添いの方が参加される場合や、お食事の追加のご用命は、同封のはがきの通信欄への記載と入金をお願いいたします。
- ※車椅子が必要な方は、申し込み時にご連絡ください。
- ※総会は慶應義塾大学病院診療日になります。駐車場は外来患者さま優先となりますので、公共交通機関をご利用ください。
- ※総会当日会費は4月22日(月)までにご入金ください。



紅梅会 平成29年度収支決算書・平成30年度予算

(単位:円)

科目	平成29年度予算額	決算額	平成30年度予算額
1.事業活動収入			
1)会費収入	3,330,000	1,828,000	3,600,000
(1)終身会費	2,730,000	1,290,000	3,000,000
(2)年会費	600,000	538,000	600,000
2)総会参加費	850,000	559,500	120,000
3)広告料収入	65,000	25,000	35,000
4)寄付金収入	0	676,611	0
5)雑収入	5,000	1,866	2,000
(1)預金受け取り利息	5,000	1,866	2,000
(2)その他	0	0	0
事業活動収入計	4,250,000	3,090,977	3,757,000

2.事業活動支出			
1)会議費支出	1,517,000	1,038,999	1,147,000
(1)総会関連費	1,000,000	733,688	680,000
(2)役委員会関連費	517,000	305,311	467,000
①役員会	5,000	5,422	5,000
②役・委員会	200,000	169,077	200,000
③編集委員会	100,000	49,859	100,000
④準備委員会	40,000	16,368	40,000
⑤研修委員会	60,000	9,812	60,000
⑥役員推薦委員会	2,000	0	2,000
⑦ホームページ委員会	110,000	54,773	60,000
⑧慶應看護100年記念事業委員会	0	0	0
2)事業費支出	3,699,206	1,837,979	2,883,802
(1)研修会費	50,000	0	50,000
(2)会報発行費	1,600,000	1,720,864	900,000
(3)慶應看護100年記念事業費	2,049,206	117,115	1,933,802
3)管理費支出	1,260,000	1,117,383	1,240,000
(1)人件費	800,000	801,076	800,000
(2)通信費	180,000	149,652	180,000
(3)消耗品等費	180,000	117,567	180,000
(4)ホームページ業務委託費	100,000	49,088	80,000
4)看護医療学部支援関連費	140,000	91,503	140,000
5)連合三田会関連費	25,000	34,740	40,000
6)予備費	50,000	0	50,000
事業活動支出計	6,691,206	4,120,604	5,500,802

学4回生 小柳 淳

10月21日(日)に「2018年慶應連合三田会大会」が日吉キャンパスにて開催されました。連合三田会とは、卒業年度や地域などを単位とした数多くの三田会を取りまとめている団体です。

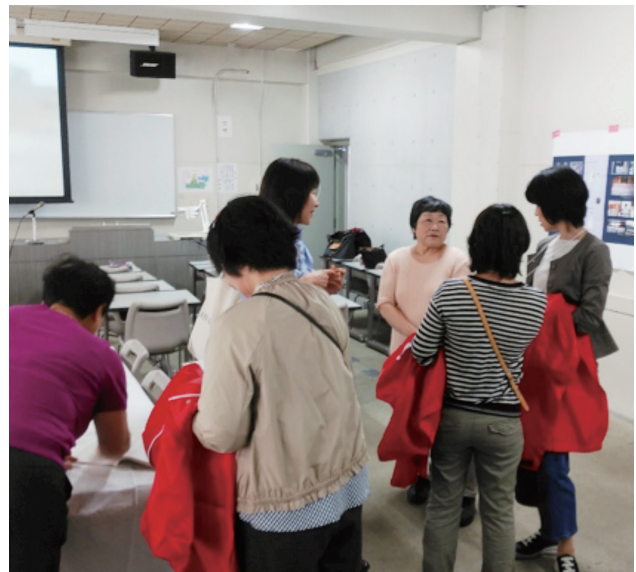
慶應連合三田会大会は、塾員有志が実行委員会を組織して毎年秋に慶應義塾大学日吉キャンパスで開催されています。

今回紅梅会では、第4校舎の教室の一つをお借りし、慶應看護100年記念の資料展示と歴史を振り返る記念映像(100年目の卒業生)の放映を行いました。多くの紅梅会会員の方にお越しいただき、参加者一同で楽しく語り合うことができました。

その他、連合三田会大会では模擬店、福引抽選会、コンサート等多彩なイベントが行われています。日曜日はあまり人がいない日吉キャンパスも、この日ばかりは並木坂に人が溢れていました。多くの慶應卒業生が食べて、飲んで、語り合っ楽しんでいました。皆様も来年はぜひご参加してください。

連合三田会大会における看護卒業生の活躍

連合三田会大会では、卒後10年、20年、30年、40年の卒業生が幹事学年となり、多くのボランティア実行委員により運営されています。例年、看護卒業生は医学部卒業生と一緒に救護所で活動しています。日吉キャンパスの様々な場所に設置された救護所で、今年も多くの卒業生が活躍されていました。皆様も幹事学年となった際は、ぜひご参加ください。



短12回生 高橋 可奈子

2018年5月12日(土)、164名の同窓生の方々にご出席いただき、慶應義塾大学信濃町キャンパス孝養舎2階202教室にて、第75回紅梅会総会を開催いたしました。今年度は慶應看護100年記念式典・祝賀会・ホームカミングデイという事もあり、大変多くの同窓生の方々にご参加いただきました。

審議事項は、「2017年度の収支決算報告・会計監査報告」、「2018年度事業計画について」、「2018年度収支予算について」、「2018年度新役員について」の4項が提案され、すべて承認されました。

会員から次のようなご意見をいただきました。まず、「地方に支部を作って支部会などを開催してほしい」との声が挙がりました。「地方からの参加が体力的にも大変になってきており、地方に支部を作るとより多くの人に参加できるため」、という理由でした。また、「慶應看護100年を記念して『紅梅会賞(仮)』なるものを授与し紅梅会のPRに」、という意見もありました。審議において、今後紅梅会会報の発行を1回にし、ホームページを活用

することが承認されました。それに対して、「紅梅会のホームページも作成されて多くの情報が見られるようになったが、高齢の場合、パソコン操作が難しく簡単に見られない、会報の発行を楽しみにしている」というご意見もいただきました。ホームページに関しては茶園会長より、「会員のみなさまに新しい情報をタイムリーに提供するために、ホームページを活用したいこと、会報は年一回の発行になるが、内容を充実させること。今回をきっかけに、リニューアルしたホームページをぜひ多くの人に見ていただき紅梅会の輪を広げていきたい」と説明をしました。

さらに「今年は慶應看護100年記念という大変おめでたい年であり、参加者でぜひ寄付をしよう」と、呼びかけていただき、ご寄付をいただきました。75回目の紅梅会総会は、参加者の方々のお力により大盛会のうちに終わりました。総会開催にあたり、ご協力いただいた皆様に深く御礼申し上げます。



 慶應義塾赤倉山荘 www.sanshikai.jp/akakura/index.html

赤倉山荘に泊ってみませんか？

雄大な自然、豊富な湯量を誇る温泉、数多くのスポーツ施設に囲まれた慶應義塾赤倉山荘には、美食・温泉はもちろんのことゴルフ、スキー、テニス、トレッキングなど季節ごとの楽しみ方があります。合宿・研修会はもちろん、ご家族やお友達と赤倉山荘へ。塾関係者のご利用をお待ちしています。

お申し込み・お問い合わせ
赤倉山荘
電話：0255-87-3900 FAX:0255-87-3905
e-mail:ak-ko@hyper.ocn.ne.jp

赤倉山荘管理事務室(三四会内)
電話：03-3359-0227 FAX:03-3358-0664
e-mail:info@sanshikai.jp



紅梅会総会に参加して

70回生 森 美千代 (旧姓:越智)

第75回紅梅会総会は5月12日(土)に旧看護短期大学の教室で開催されました。

紅梅会総会は茶園会長のご挨拶・会員代表挨拶及び病院看護部長からの現況報告等がなされた後、新旧役員との紹介がありました。

当日は、午後から慶應看護100年記念式典と祝賀会及びホームカミングデイが並行して開催されましたので、例年になく遠来の先輩方も多く、お昼休憩には「八竹の茶巾寿司」を食べながら、先輩や同級生と懐かしく有意義なひと時を過ごすことが出来ました。これも執行部の配慮によるものと感謝しています。

私は卒業後、母校の病院に勤務していましたが、数年後から産業保健師として他の機関で勤務するようになりました。現在は15年前に独立起業し、厚生労働省関連の企業数社・製造工場・IT関連企業や健診機関等、様々な組織で働く人々が心身共に健康でいられるように、健康診断における問診・事後指導、特定保健指導

や労働安全衛生活動全般について、カウンセリング業務等を行っています。

様々な業界や企業風土に合わせた職場づくりを支援することは、難しいことも多くありますが、とてもやりがいのある仕事と感じております。

これからも母校の建学精神と伝統を誇りに、それぞれの企業が、働く人の健康の確保・増進を図り、快適に働くことができる職場づくりのサポートができるように活動して参りたいと思います。

最後に紅梅会の益々のご発展とともに、会員皆様方のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。

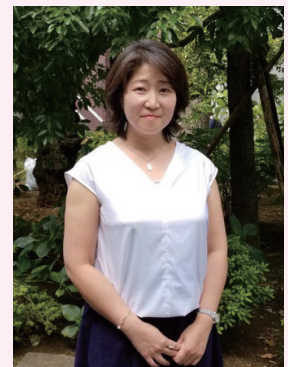


短3回生 高田 幸江 (旧姓:須賀)

快晴の5月12日、私たちは第75回紅梅会総会に参加しました。今年是我们が慶應看護短大を卒業して25年となる節目の年でした。3月には義塾から卒業式へ招待頂き、また同期が1年以上かけて企画・準備した1993年三田会大同窓会が開催され、友人達と楽しく参加しました。今年にはさらに、1918年に慶應義塾に看護婦養成所が設置されてから100年となる、「慶應看護100年」の重要な節目でもありました。次の式典は50年後?100年後?と思い、また記念の節目が重なるのも何かのご縁!と、友人を誘い総会に参加しました。

午前中には孝養舎で紅梅会総会が、午後には慶應看護100年記念式典・ホームカミング企画が開催されました。総会では学生の時と同様に教室で着席し、全国から集められた諸先輩方とひと時を共有させて頂きました。財政の健全性を保ちながら、卒業後同窓となる後輩にとって魅力ある紅梅会にしていくにはどうしたら良いかなど、活発な意見が出されました。慶應で看護を学

び、これまで様々な場で活躍をされ、今も母校への愛情を深くお持ちの先輩方の熱意を肌で感じる事ができました。また友人達がそれぞれの場で看護に携わっている事を知り、嬉しい限りでした。友人と「慶應看護とは何だろう」と改めて振り返ると、「普段意識することは無いが私達の基盤となっている対象の捉え方」や、「対象者を中心に置いた看護の視点を持っていること」などが挙がりました。私にとって総会への参加は、「私達が看護を実践する時、そこにこれまでの先輩方が造られてきた歴史が受け継がれていること」を再確認する機会となりました。そして私自身も「慶應看護」を大切に引き継いで行きたいと、気持ちを新たにしました。





看護医療学部長 小松 浩子

慶應義塾の看護教育は、1918年に大学部医学科附属看護婦養成所が設立されたことに始まり、今年で100年を迎えました。この記念すべき年を迎えるにあたり、紅梅会ならびに大学病院看護部の皆様とともに力を結集し、記念事業を推進して参りました。改めて、紅梅会の皆様には心より御礼申し上げます。今回、紙面を頂き、「慶應看護100年記念式典ならびに祝賀会」について報告させていただきます。

慶應看護100年記念式典ならびに祝賀会は、2018年5月12日(土)信濃町キャンパスにおいて開催致しました。五月晴れのもと、350余りの来賓・招待者、塾生(在学生)、塾員(卒業生)、教職員等が出席し、慶應の看護教育100年を祝いました。記念式典では、長谷山彰塾長の祝辞に続いて、来賓の比企能樹連合三田会会長、イム・スッピン ウルチ大学看護学部長、エマミアズィタ ワシントン大学看護学部長(映像)、上泉和子日本看護系大学協議会代表理事、茶園美香紅梅会会長より祝辞を頂きました。式典の後半では、慶應看護100年史編纂委員会作成による記念映像「百年目の卒業生」¹⁾を上映し、慶應看護教育の現在までの歩みを振り返りました。懐かしい信濃町キャンパスを背景に先輩諸姉の若き姿、そして未来を担う学部生の澁瀨とした姿が映しだされ、古から未来へと続く希望を見ることができました。続いて、川添高志ケアプロ株式会社代表取締役社長(看護医療学部1期生)、真田弘美東京大学大学院医学系研究科教授による記念講演が行われ、次の100

年に向け、看護が社会に果たすべき役割と最先端の研究知見を共有しました。その後、木下奈苗君(4年)と坂崎哲君(3年)が看護医療学部生を代表して「未来健康宣言」を行い、看護の未来を自らが先導していくことへの力強い決意表明が行われ、参加者一同心揺さぶられました。

記念式典後は、来賓・招待者、教職員等を中心とした祝賀会および別会場で塾員を中心としたホームカミング企画(大同窓会)が行われました。國領二郎常任理事、清家篤前塾長、武田純三三四会会長より祝辞を頂いた後、青山藤詞郎常任理事による乾杯、そして、北川雄光病院長、来賓吉野肇一様、三浦英子様による心温まるお言葉を頂きました。同時開催となった、ホームカミング企画では、「今日まで、そして明日から」と題した座談会が行われ、卒業生と看護医療学部生が登壇し、塾員、塾生の立場からそれぞれの取り組みと思い出を語りました。座談会後にはさまざまな世代の塾員が慶應看護100年を祝いながら、再会を喜びあいました。

祝賀会の最後に、竹内勤常任理事によりこれからの慶應看護100年にむけたエールを頂き、参加者は次の100年に思いを馳せながら、盛況のうちにすべてのプログラムが終了しました。

これからの慶應看護100年のスタートが切られました。皆様、どうぞ力をあわせて歩みを進めて参りましょう。どうぞよろしくお願い申し上げます。

1) 慶應看護100年記念映像「百年目の卒業生」(式典上映版)
<https://youtu.be/sR-GY00i4oM>



「未来健康宣言」をする学生 慶應義塾広報室 提供



座談会 「今日まで、そして明日から」 慶應義塾広報室 提供

慶應看護100年記念式典／祝賀会



小松浩子看護医療学部長 式辞
慶應義塾広報室 提供



長谷山彰塾長 祝辞
慶應義塾広報室 提供



東京大学大学院医学系研究科 教授 真田弘美先生による
記念講演
慶應義塾広報室 提供



祝賀会 慶應義塾大学医学部三四会会長 武田純三先生 祝辞



「百年目の卒業生」上映会

100
KEIO Nursing 100 Le



座談会 慶應義塾広報室 提供



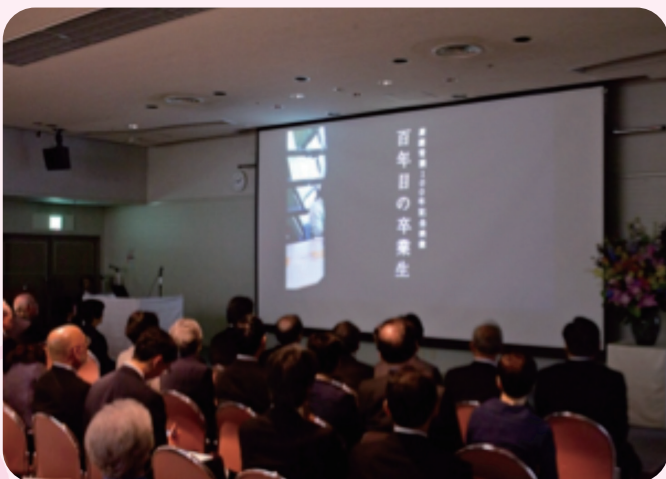
座談会 慶應義塾広報室 提供



受付



座談会 「今日まで、そして明日から」



「百年目の卒業生」上映会 慶應義塾広報室 提供



歓談タイム



紅梅会ホームページリニューアルのお知らせ

紅梅会ホームページをリニューアルしました。 <https://keio-koubaikai.jimdo.com/>

当ホームページでは、紅梅会の概要を始め、紅梅会会員からのお知らせや卒業生のインタビューなど、紅梅会に関連する幅広い内容を掲載しております。今後も多くの皆さまにご利用いただけるよう、新着情報も随時更新し、内容の充実化を計ってまいりますのでご覧ください。どうぞ宜しくお願いいたします。

慶應看護100年記念ホームカミング企画報告

看護医療学部教員 宮川 祥子

5月12日(土) 信濃町キャンパス北里講堂において、慶應看護100年を記念したホームカミング企画(大同窓会)が開催されました。医学部附属看護婦/産婆養成所、厚生女子学院、看護短大、看護医療学部の卒業生、看護医療学部生、計278名が集結し、北里講堂が満席となる盛会となりました。

看護医療学部 武田祐子教授と紅梅会副会長・松蔭大学看護学部 川畑貴美子教授のご挨拶に続き、「今日まで、そして明日から」というテーマの座談会を行いました。厚生女子学院OGで東京海上日動メディカルサービスの玉利英子氏(厚生女子学院86回生)、看護短大OGで和倉温泉多田屋で若女将をつとめる多田弥生氏(看護短期大学8回生)、東邦大学医療センター大森病院でチャイルド・ライフ・スペシャリストとしてご活躍の原田香奈氏(看護短期大学9回生)、看護医療学部OBで慶應義塾大学病院GICU主任の渡邊開氏(看護医療学部3回生)、看護医療学部4年生でこども食堂を運営する学生団体MOP元共同代表の佐藤彰恵氏(看護医療学部4年)の5名にご登壇を頂き、それぞれのキャリアと慶應看護での思い出、今後の慶應看護への期待などを熱くお話しいただきました。特に学生時代に実習で苦勞したエピソードは、現役の学部生には共感を持って受けとめられたようでした。

懇談タイムでは、各世代の方々が再会を懐かしんだり、世代間での交流の様子も見られました。会場内外に

は、故青田与志子氏の篤志による基金を活用した学生の海外研修の成果等のポスターが掲示され、多くの方々が興味深く見入っていました。

楽しい時間は瞬間に過ぎ、大変盛況のうちにすべてのプログラムが終了しました。本企画にあたっては紅梅会から江河都美・瀬戸美奈子・吉安麻耶委員のご参画をはじめ多大なご協力を頂きました。心から御礼を申し上げます。



100th

KEIO Nursing 100 Leading the Future

尾張名古屋 麺類製造販売

味噌煮込みうどん、きしめん
八千代製麺株式会社

愛知県一宮市丹陽町九日市場 1816 TEL 0586-77-4016 FAX 0586-76-3611

URL: <http://yachiyomen.jimdo.com/>





49回生 野田 ムツミ

慶應看護100年記念式典に同級生6名と共に参加出来たことを大変嬉しく思っている。式典の準備や記念誌等の作成に関わられた方々や元会長の同級生藤村龍子、懇意にしている前会長の三上れつ、現会長の茶園美香さんの御苦勞に心より感謝している。式典及び祝賀会での話に慶應看護の発展の状況がよく解り誇りに思っている。私は学院入学前に2号棟5階内科病棟に8ヶ月間。学院での担任は平松キツ子先生。救急外来勤務当初は50回生の三浦英子さんと。9ヶ月の救急外来勤務では専任の夜勤婦長他準夜勤では全婦長の指導を受ける機会に恵まれた。主任看護婦として6号棟2階では平松婦長に2号棟2階では前田照子婦長の指導を受けた。慶應での17年間の後、1953年退職、1954年郷里の福岡県北九州市に新設された産業医科大学病院(5代目看護婦長54回生寺本和子)に病棟婦長として就職。1974年定年退職出来た。

慶應看護に関わった中で特に思い出されるのは7号

棟2階外科病棟勤務で引き継ぎに苦慮時、故田村主任に「経験を積むことで解決する」と励まされたこと。帰宅後朝日新聞の天声人語に「試練は人を成長させる」が目に入りその後、私の座右の銘となった。ほかに救急外来勤務指示の折、主任看護婦への登竜門でもあった事から「私にはやれません」の返答に、当時の松村はる総婦長に「あなた、やらないでやれないとは言えないはずですよ」に一念発起して受けた事などが思い出される。記念誌の座談会を興味深く目を通し、慶應看護の根底にある福沢諭吉先生の「気品の泉源」「智徳の模範」や「患者さん中心の患者さんのための看護」を心して看護に臨んだ事が私の看護に少なくとも評価を得られたものと自負している。慶應看護100年のひとこまに携われたことを誇りに思っている。



60回生 三上 れつ

2018年5月12日(土)午後1時から病院の最上階会議室で、厳かに慶應看護100年記念式典が開催されました。天候にも恵まれ、慶應義塾大学病院の入口から会場まで大勢の看護医療学部の教職員スタッフと病院看護部スタッフのおもてなしを受けて席につくことができました。

正面のスクリーンには慶應看護の歴史的な映像が流れ、前方にはご高名な来賓の先生方が着席され、その真後ろに慶應看護と紅梅会を推進されてきた平松キツ子・野澤芳子・阿部美津子先輩諸姉(28回生)をみつけ、慶應看護の歴史を何度も伺ったことが思い出され感謝の気持ちでいっぱいになりました。紅梅会同窓生の参加は少なかったのですが、看護医療学部1回生の川添高志君のワンコイン健診起業の記念講演や、看護医療学部生4年生の木下奈苗さんと3年生の坂崎哲君の堂々たる未来健康宣言を伺い、慶應義塾の「先導者たれ」の精神を後輩たちは在学中から受け継いでいると

関心いたしました。

午後の3時20分からは、会場に隣接するレストランで祝賀会が行われ、懐かしい神宮の森を見下ろしながら、医学部の先生方と若かりし頃の昔話に花を咲かせました。元看護部長の三浦英子姉(50回生)から中鉢美津子元看護部長(23回生)や内藤寿喜子元教務主任(35回生)の近況を伺い、慶應看護におけるお二人の存在の大きさをあらためて実感した次第です。

厚女で生涯の友を得、学生時代と職業生活を通して職業的アイデンティティを獲得できた50年。母校である慶應看護の益々の発展を祈願するとともに、このような記念式典と祝賀会を企画・運営された看護医療学部と紅梅会の皆様に心から感謝いたします。



ホームカミングデイに参加して

学1回生 川添 高志

学生時代は茶髪でバイク、実習での出禁事件、履修申請ミスで嘆願書、国家試験に不合格、卒後は一般企業、病院就職するも慶應ではなく東大へ、そのような私に講演の機会を提供して下さった慶應の懐の深さに感嘆しました。

講演中に感極まり涙が溢れましたが、看護の道で、新しい道を開拓してきたことの苦勞とそれを支えて下さった慶應の皆様への感謝の念が込み上げました。そして、ホームカミングデイでは、3つのことを感じました。

まず、私たちは奇跡的な時空にいるということ。慶應看護100年の節目に講演をするという貴重な機会を頂きましたが、もし私が高校を卒業する2001年に看護医療学部ができなかったら、もし短大や厚生女子学院、高等看護学院、養成所がなかったら、もし福沢諭吉先生がいなかったら、私は式典の場には立っていません。

次に、慶應看護に不可能はないということ。講演後に看護の仲間はもちろん、医学部長や理工学部長、病院

長、三田会長などから激励して頂き、大家族がいることが慶應の強みであり、他の看護学校ではあり得ません。

最後に、現状に甘んじない危機感の重要性。社会を先導する時に大切なことは、誤った道を選ばずにこれから必要になる道を見極めることですが、今は正しい道がいずれは必要なくなる道になってしまうこともあります。社会を変えていく慶應自身が、自らの変化を恐れずに挑戦していかなければなりません。

これからの100年に向けて、～Lead yourself, Lead the society.～



学4回生 萩原 加奈子

5月12日、私は慶應看護100年記念式典及びホームカミング企画慶應看護100年大同窓会に参加しました。100周年という記念イベントは、一生のうちで滅多に訪れる機会ではないのですが、自分自身が参加してよいものか迷いながら、信濃町キャンパス北里講堂に足を運びました。会場には慶應看護の多くの先輩方・後輩が集い、その場の空気を共有するだけでも身の引き締まる思いがし、また、様々なご来賓の方々のお言葉やご講演を拝聴し、改めて慶應義塾の精神を感じることができました。

私は現在、子どものヘルスリテラシーの研究をしています。インターネットの普及により情報が氾濫する中、ヘルスリテラシーとは、あふれる情報の中から、自分に合った信頼できる健康や医療の情報を入手し、理解し、評価し、適切な意思決定を行い、行動できる能力です(中山, 2014)。日本人のヘルスリテラシーは、欧州8か国やアジア6か国と比較して最も低く、情報を理解できたとしても、判断したり決めたりするのが難しい傾向があります。諸

外国では、子どもの頃から発達段階に合わせて、自分の健康を決める実践的なスキルを身に付ける教育が行われていますが、日本ではまだまだ不十分な状態です。

日々の研究は試練の連続で、自分の使命を見失うことも多々あります。それでも自我作古の精神を大切に、小さな一歩でも歩み続けていきたいと思えます。

最後になりましたが、当日託児サービスを利用させていただき大変感謝申し上げます。子育てをしながらも、このような場に参加し、有意義な時間を過ごせたことをとても有難く思っております。



看護医療学部だより

先導する医療人の育成:医療系三学部合同臨床実習

看護学部教員 添田 英津子

慶應義塾には、医学部、薬学部、看護医療学部と医療系の学部が3つ揃っています。日々進歩する医療において専門分化が進む一方で、専門職同士のコミュニケーションや患者中心のチーム医療が重要になるという考えから、2011年より医療系三学部合同教育が始まりました。この合同教育は、初期・中期・後期という3つのプログラムがあり、看護医療学部生は、1年次に初期、2年次に中期、4年次に後期のプログラムを他学部の学生とともに学びます。専門が異なる学生が、与えられた共通の課題について学ぶことは、とても貴重な機会であり、学生たちに人気のプログラムです。

ところで、2018年5月に開院した新病院棟ですが、2006年から始まった建築計画の議論の中で「クラスター診療」に期待する言葉が多く寄せられていたそうです。その結果、臨床現場で共に学ぶための「教学スペース」が設置されました。そこで大学では、新病院棟が開院した本年を「合同臨床教

育元年」と位置づけ、複数の学部生が臨床で一緒に学ぶ機会を作るべく努力を始めました。

実際には三学部の実習予定を合わせることは極めて難しいのですが、担当患者について語る学生たちの目は輝き、お互いに刺激を受けているようです。また病棟にも、在学中にすでに三学部合同教育を受けた医師や薬剤師、看護師が勤めているため、この合同臨床教育に協力してくださる素地が育まれ始めていることもわかりはじめました。

学生が共に学び、教員が他学部の学生を教えることが当たり前というこの「合同教育が文化」となり、将来を先導する医療人の育成するための場となることを期待しています。



同窓会報告

卒後10年目の集い

学5回生 大河 千賀子(旧姓:水野)

2018年6月16日(土)に、看護医療学部5回生同窓会を開催し、卒業生39名、子供9名、教授2名の総勢51名が参加されました。

私は学部卒業後、虎の門病院に就職したため、慶應との繋がりが希薄になっていました。時折同期に会うと「同窓会をしたい」という言葉は出るものの、開催には至りませんでした。けれど卒後10年目という節目の年を迎えるにあたり同窓会を企画することを決め、朝倉 崇君、吹田 晋君、福井 理恵さんに声をかけ幹事を依頼し、今回の会を開催する運びとなりました。

久々に会う同期は看護師を続けていたり、一般企業勤務をしていたり、大学院進学、教職、産業保健師、訪問看護ステーション設立、看護とは全く違う分野など多様なキャリアを歩んでいました。プライベートでも結婚・出産・育児など学生時代とは大きな変化がありました。しかし、子連れの人々に対する気遣いや幹事への心配りなど、学生時代と変わらぬ相手を思いやる温かさを感じました。同窓会を通して同期の華々しい活躍を知り、それを誇りに思うとともに、改めてよい環境で学生時代を過ごせたことを嬉しく思います。

現在私は夫の仕事の関係で、7月末からブルガリア共和国

で生活しています。渡航することが決まった時は、私自身のキャリアの中断、在留邦人の少なさなどから現地での生活への不安を抱えていました。けれど同窓会で出会った同期から刺激を受け、今しか出来ない経験を活かしたい、と思えました。次の同窓会が何年後になるかは分かりませんが、その時にも胸を張ってみんなに会えるよう、私自身も充実した時間を過ごしていきたいと感じています。



看護部長 87回生 加藤 恵里子

11月1日より看護部長が交代いたしました。看護部長の松田美紀子は病院事務局長へ就任し、後任として87回生加藤恵里子が看護部長に就任いたしました。ご支援の程、何卒よろしくお願い致します。

看護部の近況をご報告いたします。

1.2018年4月看護師採用状況

新採用者:105名(うち男性看護師2名、経験者採用1名)

新卒看護師:104名(看護医療学部卒70名、他校卒34名)

出身校:関東93名(88.5%)、北海道・東北3名(2.8%)、九州4名(3.8%) 中部・北陸3名(2.8%)、中国・四国2名(1.9%)

2.新病院棟1号館オープン 6ヶ月の現状報告

看護部次長 86回生 山澤 美樹

2018年5月7日、待望の1号館がグランドオープン致しました。それに先駆け、ゴールデンウィークは総出の移転作業で、特に5月4日の病棟移転は、移転本部指揮の下、救護班や誘導支援係等が病棟スタッフの患者移送を支援し、重症19名を含む374名の患者全員が安全に移転できました。患者にも医療者にも快適で安全安心な施設を目指し、皆で検討した運用の一部を紹介します。

◆外来サービスの向上

待ち時間短縮や気配りあるサービスを目標に、ブロック受付を設けました。また、受付番号でのディスプレイにより、ラウンジなどでも診察の進行が確認できるようになりました。

◆病棟アメニティの充実

大きな窓で開放的な患者用ラウンジは飲食も可能で、特に面会時間は多くの利用があります。病室は、家具で仕切られた多床室もできました。病院食に箸やお茶が付くようになり、好評です。

◆全体最適と標準化への取り組み

全ての医療者がいつでもどこでも役割発揮できる環境を目

指し、物のレイアウトや運用を統一しました。スタッフコアラウンジやカンファレンスルーム、多目的スペースは、教職員や学生等が職種・部門の垣根なく利用できます。チーム医療を促進し、医療人育成の場となっています。

◆セキュリティ強化

病棟入口は24時間施錠され、患者さんもカードを携行し出入します。患者・スタッフ導線も分離され、保安が格段に改善されました。

病院の顔となるエントランスや外構整備、2号館改修など構内では工事が続きます。引き続き、皆様にはご支援賜りますようお願い致します。



5月4日病棟移転当日の様子



1号館スタッフコアラウンジ

3.病院看護部と看護医療学部の人事交流

看護師長 短2回生 杉浦 なおみ

慶應看護100年事業として開始した「臨床指導ナースが更に教育力を高めるプログラム構築」は2年目を迎えました。本事業では、2013年より育成を開始した臨床指導ナースのうち更に教育力の高い「臨床指導ナースアドバンス実践者」を育成するプログラムを構築しました。現在、5名の臨床指導ナースアドバンス実践者が急性期・慢性期・小児領域の学部

講義や演習、実習指導に参画しています。カリキュラムを理解し、学生の学ぶプロセスを点ではなく線で捉え、指導を担うことで、臨地実習での学生の学びを深めることに繋がっています。過密な医療の現場において、学部、病院双方の惜しみないご協力のもと本事業をすすめております。次の150年に向けて未来をともに創造する人材育成に取り組んで参ります。

活躍する専門看護師

新生児集中ケア認定看護師として思うこと

短4回生 廣明 由子

2009年に新生児集中ケア認定看護師の資格を取得し、今年で活動9年目となります。私の専門分野は、早産児や疾病新生児の急性期看護です。多くの医療機器に囲まれた環境で頑張る小さな命を、ご家族と医療者がチーム一丸となって支えています。退院後も呼吸機能や運動機能に障害を残すお子さんや発達がゆっくりなお子さんもいるため、後遺症・合併症を予防し健やかに成長発達できることを目指し看護しています。

私は外科系小児病棟を9年半経験した後に新生児病棟に異動しました。その時、脳性まひや染色体異常の幼児のお子さんが生まれてから一度も退院することなく何年間も長期入院していました。看護師として母子のために何かできないだろうか考えたことが新生児集中ケア認定看護師養成機関に進んだきっかけでした。そして現在思うことは、母親を信頼すること、母子関係の障壁となるもの(母親の自責の念や無力感、母子の接触制限、サポート不足など)を可能な限り少なくすることが看護師にできることだと考え実践しています。

また、価値観やライフスタイルが多様化する中で、お子さんの長期的予後を予測し退院後の養育環境を調整することや児童虐待のリスクを予測して予防的に介入することも必要です。妊娠・出産・育児といった母親となるプロセスにおいて、産科・新生児科・小児科・地域の医療機関や福祉が途切れなく連携し母子をサポートすることが重要だと考えています。

認定看護師の役割には実践・指導・相談がありますが、近年は特に看護師育成に力をいれています。3交代勤務を担う看護師が心身健康でワークライフバランスを保ちつつ看護にやりがいを感じ成長できるよう尽力していきたいと思います。



研修会報告・お知らせ

研修委員長 学4回生 小柳 淳

2018年12月7日(金)18時より孝養舎202教室にて、第40回紅梅会研修会を行いました。今回は講師として、佐藤純さん、香川真美さん(ともに、ケアプロ株式会社在宅医療事業部ケアプロ訪問看護ステーション東京在宅ケア防災研究会代表)のお二人をお迎えしました。2018年は日本全国で多くの災害があったこともあり、「訪問看護師が教える 災害看護のいろは戸」と題しご講演いただきました。研修会当日は看護師をはじめとした医療従事者、看護医療学部生など、48名の方にご参加いただき、盛況に終えることができました。

まずは香川さんより、災害関連の概論や災害時に活かせる訪問看護師のスキル等をお話いただきました。訪問先の室内状況の確認、患者の服装や生活を見る視点など、普段から行っている訪問看護師としての多くの活動が災害対策に活かせ、できることから始めることが大切だと感じました。続いて佐藤さんからは、ピースボートの一員として岡山県倉敷市真備町で実際に行った支援を中心にお話いただきました。研修会後のアンケートでも「退院指導の際に災害時の対応

や防災については後回しになってしまっていた」「地域の他職種との連携の大切さを再認識した」とのご意見がありましたが、災害対策について改めて考える機会となったとともに、被災地支援として避難所で避難者のニーズをアセスメントし、それぞれの地域・施設に合わせた方法で支援していくことの難しさを感じました。

佐藤さん、香川さんの今後の益々のご活躍を祈念するとともに、参加者の皆様、広報活動にご協力いただいた皆様方に厚く御礼申し上げます。

なお、次回の研修会は2020年に行われる総会当日に実施する予定です。今後も多くの卒業生、在校生、教職員の方等にご参加いただける研修会にしていきたいと考えております。



2018年度紅梅会役員・委員

会長	茶園 美香 (66)	研 修	竹内 文香 (学10)	準 備	赤木 紀子 (短9)
副会長	川畑 貴美子 (67)		☆中野 美雪 (学13)		古瀬 真理子 (学5)
書 記	緒方 めぐみ (短4)	編 集	☆松山 絵莉香 (学14)	役員推薦	☆大和田 紗代 (学12)
	☆高橋 可奈子 (短12)		◎浅川 翔子 (学5)		◎阿部 典子 (短6)
☆小林 良子 (学1)	加賀美 敦子 (短2)		☆石井 亜希子 (短10)		
☆加藤 貴美代 (短6)	☆羽成 陽 (学8)		☆佐藤 清香 (学1)		
浅見 友紀 (短11)	石井 佑佳 (学9)		◎木本 留理子 (学9)		
会計	☆加藤 貴美代 (短6)	編 集	丸山 清子 (学9)	ホームページ	☆北村 智恵子 (短13)
	浅見 友紀 (短11)		☆坂口 志穂 (学11)		高橋 孝治 (学1)
会計監査	☆上田 優子 (短12)	編 集	☆坪田 美悠 (学12)	ホームページ	☆半田 友里香 (学10)
	◎小柳 淳 (学4)		◎江河 都美 (84)		☆宮田 千秋 (学10)
研 修	鈴木 千琴 (学1)	準 備	☆新藤 香織 (短9)	紅梅会事務	浅田 頼子 (68)
	小瀬 文彰 (学9)				

() : 卒業生 ◎ : 委員長 ☆ : 新役員・委員

紅梅会事務局よりお知らせ

会報はメール便でお送りしております。住所・氏名等を変更された時は、必ず事務局までご一報下さい。不在の場合は留守番電話にメッセージをお願いします。事務局は下記の曜日に在室しておりますが、都合によりお休みをいただくこと、会議により曜日を振り替えることもありますのでご了承ください。

平成25年版会員名簿(3800円)の在庫があります。購入ご希望の方は電話またはFAXで事務局までお申し込みください。

事務局在室時間: 月・木曜日 13時~17時
長期休み: 夏休み8月、年末年始2週間程度
直通電話・FAX: 03-3341-8116

浅田 頼子 (68回)

2019年「特選塾員推薦」受付中

2001年4月から、特選塾員規約の一部変更により、厚生女子学院卒業生も特選塾員となるできるようになり、今までに261名の方が紅梅会推薦により特選塾員とされました。塾員であるということは慶應義塾卒業生のメンバーとして塾員間の交流ができるようになり、多彩なメンバーとの交流もできるようになります。また、慶應義塾の図書館利用証も取得できます。

紅梅会推薦として手続きいたしますので、ご希望の方は「氏名・ふりがな・生年月日・現住所・電話番号・回生または卒業年月・学歴(高校以降)・職歴」を明記して、紅梅会事務局に郵送またはファックスでお送り下さい。随時受け付けております。

なお不明なことは紅梅会事務局にお問い合わせください。

訃報

13回生	室伏 二百子 (旧姓田中)	2009年7月15日	25回生	高柳 ぬき (旧姓坂野)	2017年9月
助16回生	堀口 しげ子 (旧姓島田)	2011年9月14日	25回生	林 恵美子 (旧姓園中)	2017年12月16日
助16回生	宮岡 キヨ (旧姓鈴木)	2014年11月2日	27回生	池田 操 (旧姓中村)	2017年8月
助17回生	磯山 すい	2015年1月6日	29回生	福与 操	2016年12月22日
18回生	小田 俣江 (旧姓鈴木)	年月日不明	32回生	大国 昭代 (旧姓豊田)	2018年9月13日
19回生	井坂 すえ (旧姓山口)	2017年9月17日	33回生	三原 町子 (旧姓伊奈)	2018年1月12日
19回生	石原 孝子 (旧姓品竹)	2008年	33回生	宮崎 英子 (旧姓小泉)	2016年6月3日
21回生	横田 恵美 (旧姓万年)	2015年2月13日	34回生	青羽 とく (旧姓関)	2018年1月1日
21回生	大森 百子 (旧姓菅原)	年月日不明	34回生	前田 広江 (旧姓柴田)	2017年3月11日
23回生	稲垣 とみ	2018年1月24日	37回生	松本 登美 (旧姓村上)	2018年4月22日
23回生、助21回生	鷲頭 マス (旧姓高橋)	2017年10月17日	45回生	齋藤 直子 (旧姓羽島)	2017年1月19日
24回生	伊藤 ちゑ子 (旧姓高橋)	2015年9月	47回生、准4回生	柏瀬 貴美子 (旧姓林)	2017年8月14日
24回生	杉山 晴子	2018年10月1日	57回生	山吉 薫 (旧姓平松)	2017年9月4日
25回生	笠井 イツ (旧姓佐藤)	2017年7月	67回生	八島 秀子 (旧姓千葉)	2014年6月7日
25回生	金子 静恵 (旧姓大山)	2014年	学8回生	盛山 敬子	2018年10月4日

2019年1月31日現在

編集後記

2018年度、紅梅会編集委員長を務めさせていただきました、浅川翔子と申します。

慶應看護100年の節目に、皆様のご協力により109号を無事発行することができました。記念すべき年に編集に携われたことを大変光栄に思います。本号は、慶應看護の歴史を記念し、保存版としていつでも読み返していただけるような内容になっております。次の100年先も、変わらず同窓会が繁栄しますよう温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

編集委員長 学5回生 浅川 翔子